

# 川崎市制100周年・川崎競輪開設74周年記念桜花賞海老澤清杯



1/18(木)

19(金)

20(土)

21(日)



川崎スポーツ

## レース展望

1月18日から開催される川崎競輪は桜花賞、海老澤清杯として行われるG3。バンク改修後、初の記念競輪となる。S級S班の4名を中心に、実力者が揃いハイレベルな戦いとなりそう。

桜花賞の主役はやはり郡司浩平(神奈川99期)。昨年はGP出場を逃したが、郡司が大切な開催として位置付けるこの地元記念が今年最初の山場。S班の深谷知広(静岡96期)や北井佑季(神奈川119期)、渡辺雄太(静岡105期)といった強力機動型に加えて、ホームの松谷幸幸(神奈川96期)や佐々木龍(神奈川109期)らも虎視眈々とチャンスを待つ。南関東

の戦力が一歩リードとみていい。最大の難敵となるのはS班の清水裕友(山口105期)と松浦悠士(広島98期)のゴールデンコンビ。どちらが前でも攻め幅が広いこの2人は、間違いなく地元南関東を苦しめる存在となるだろう。

続いて怖いのは急な追加参戦となったベテラン佐藤慎太郎(福島・78期)。近年はS班の地位を守り続けており、いぶし銀のさばきとキメ脚は衰え知らず。経験豊富な同県の機動型渡辺一成(福島88期)とは過去に数多くの好連係を決めている。

S級S班を擁する上記の3地区を優勝争い

の中心に推したが、他にもトップクラスの選手が多く揃う。関東からは自在な佐々木悠葵(群馬115期)、キメ脚鋭いベテランの諸橋愛(新潟79期)、杉森輝大(茨城107期)。中近地区は2016年に当地記念を制覇している稲川翔(大阪90期)が参戦。数字以上の存在感がある太田竜馬(徳島109期)とキメ脚健在のベテラン香川雄介(香川76期)が参加する四国勢、力付けてきている松本秀之介(熊本117期)と実力者松岡貴久(熊本90期)の熊本コンビもダークホースとして注目していきたい。流れひとつで波乱の結末もありえる好メンバーだ。

援軍多い地元郡司浩平がV最短

S級  
主力選手



**郡司浩平** 神奈川99期

当地の記念は連覇を続けている郡司浩平。2020年は全日本選抜を当地で制すなど、まさに川崎バンクの主役。今年S班から陥落したが、この桜花賞だけは譲れない。難敵が揃うものの、層の厚い南関東の中核としてVを狙う。ここを勝ち切りS班復帰に弾みを付ける。

S級  
主力選手



**松浦悠士** 広島98期

昨年のGP覇者で賞金王の松浦悠士が登場。自力自在に何でもこなせるスタイルで抜群の安定感を誇るが、GPでも連係した清水裕友との参加は大きなプラス材料。どちらが前で戦うかは状況次第だろうが、頼もしい相棒との参加で中国勢の戦力は一気に跳ね上がる。

S級  
主力選手



**佐藤慎太郎** 福島78期

47才にして昨年も賞金獲得額第4位と日本一のマーク型としての地位を揺るぎ無いものにして北日本の大ベテラン。GI決勝成績でも平塚ダービー3着、岸和田高松宮記念杯2着、弥彦寛仁親王牌2着と抜群の安定感を誇り、3連単では外せない存在だろう。



S級  
注目選手

**深谷知広** 静岡96期

愛知から移籍して3年余りが経つ深谷知広だが、昨年はGP出場を決めて準V。名実共にいまや南関東の主砲となった。2012年には当地記念を制覇しており、相性も悪くない。自力基本にまだまだ進化を続ける深谷が、地元南関東ラインの先導役としてフル回転。



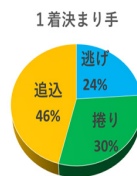
S級  
注目選手

**北井佑季** 神奈川119期

プロサッカー選手から競輪に転向した北井佑季は、デビューから徹底先行を貫き、いまや南関東勢にとって欠かせない主力機動型に成長した。昨年末のヤングGPは惜しくも2着に敗れたが、ラインを生かした先行が北井の真骨頂。層の厚い南関東ラインを先導していく。

### 川崎競輪場バンクガイド (2023年10~12月データ)

1年の改修工事を経て、昨年10月からリニューアルした川崎バンク。12月まで363レース(ガールズを含む)を終えた段階の1・2着の決まり手データは表の通り。基本的に構造は旧バンクを踏襲したもので、逃げ・捲り・差し・マークについて、それぞれのパーセンテージは以前と変わりはない。ただし1着に限って言えば、逃げ・捲りの決まり手が54%と過半数越えて、自力型のアタマから組み立てていく車券戦術が可能だろう。川崎名物イエローライン付近の強襲コースは、バンク改修により最終4コーナー走路をスムーズに回ってくるようになり、前団選手の失速が少なくなったため、今のところは出現率がそれほど高くない印象だ。



競輪は適度に楽しみましょう。車券の購入は20歳になってから。

【発行】川崎競輪 【監修】川崎サイクル